

日本語版 取扱説明書

XR886

PEAVEY

Powerd Mixer



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL: 0476-22-9333 FAX: 0476-22-9334

はじめに

この度は、PEAVEY 社製のパワード・ミキシング・コンソール XR886 をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。XR886 は FLS 機能付き EQ や、デジタル・リバーブなど豊富な機能を満載した 16 チャンネルのステレオ・パワード・ミキサーです。最大 600W (300W+300W) の出力を持つパワーアンプを内蔵していますので、お手持ちの PA 用スピーカー・システムを接続するだけで簡単に PA システムを構築できます。

XR886 の性能をフルに発揮させ、未永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

各部の説明



1. チャンネル・インプット・セクション

1. ライン入力

高いレベルの信号に使うことのできるバランス仕様のハイインピーダンス・ステレオフォン入力(TRS)です。チップがホットでアンバランス入力にも対応します。この入力は 20dB パッドを通してマイク入力に接続されています。マイク入力と同時に使用することはできません。

2. マイク入力

XLR 仕様、ロー・インピーダンス入力は、マイクやその他の低いレベルの信号に最適です。2 番ホットになっています。幅広いゲイン調節ができる為、+10dBV までの信号レベルを使用することができます。ファンタム電源を使用する場合、+48V の電圧が 2 番 / 3 番のピンに流れます(1 番はグランド)。

3. パッド

入力信号レベルを 20dB 下げます。高いレベルの信号を用いる時にパッドを使ってクリッピングしないようにダイナミック・レンジを上げます。例えばギター・アンプやドラム・キットをマイク録りする時に効果的です。

4. ポラリティー

入力信号のフェイズをリバーシします。この機能により逆相になっている入力を補正してミックスの打ち消し合いを防ぎます。

5. LEFT/MONO 入力

ライン・レベル信号用のハイ・インピーダンス入力です。LEFT/MONO 入力は左右両方の入力へ信号を送り(RIGHT の入力ジャックが使われていない時)、その後ラインレベル・コントロールを通してダイレクト/EQ スイッチに信号を送ります。

6. RIGHT 入力

ライン・レベル信号用のハイ・インピーダンス入力です。RIGHT 入力は右の入力に信号を送り、その後ラインレベル・コントロールを通してダイレクト/EQ スイッチに信号を送ります。

7. ファンタム電源スイッチ

48VDC の電圧をすべての XLR 入力コネクターへ供給し、コンデンサー・マイクに電源を供給します。注意：ファンタム電源のスイッチを入れる時にマイクが差し込まれているチャンネルがミュートされているか、またすべてのモニター、AUX が最小レベルになっているかどうかを確認してください。そうしないとスイッチ ON 時に大きい音が出ます。これは普通の現象です。マイクを差し込む時はそのチャンネルに供給されるファンタム電源のスイッチをオフにすることを勧めます。PA においてノイズを減少させ、マイクのダメージを避ける事ができます。

ファンタム電源を使用する場合、XLR 入力に対してこの電圧に耐えられないアンバランス仕様のダイナミック・マイクやその他のデバイスを接続しないでください(ワイヤレス・マイク用のレシーバーの中にはダメージを受けるものがあります。説明書をご参照ください。)ライン入力ジャックはファンタム電源には接続されておらず、すべての入力(バランス入力/アンバランス入力ともに)はファンタム電源の影響を受けません。PEAVEY5116 や 1:1 インターフェース・アダプターなどのようなアンバランスからバランスへのインピーダンス・コンバーターを使ってファンタム電圧からマイクを切り離して使用することができます。

11. チャンネル・セクション

マイク・チャンネル・セクション

1. インサート

ステレオ・フォン・ジャック(TRS)を使って外部デバイスを EQ 前の信号系統にインサートすることができます。チップはセンドで、リングはリターン入力です。ジャック内のスイッチは、通常プラグを差し込むまでセンドからリターンに接続されています。インサーション・ケーブルをインサートジャックに差し込んでエフェクターを使用します。

2. MIC GAIN

入力ゲインを変えてダイナミック・レンジをコントロールします。入力ゲインを適正レベルに調節して S/N 比を最大にする事ができます。PLF スイッチを入れて、右メーターを 0dB(+0dBV)のレベルになるように調節して設定します。

3. LOW CUT

75Hz 以下の信号をカットするローカット・フィルターです。ウインド・ノイズ、息の音、ステージ・ノイズ、その他不必要な低域音からソースを保護します。MON1 と 2 のセンドに送信したプリ EQ 信号はこのスイッチの後に位置付けられているため、モニター信号にも効果があります。

4. HI EQ

シェルピング・タイプのアクティブ・トーン・コントロールで、12kHz の高域を ±15dB 増減させます。ソースの質にあわせて不要なノイズを押さえたり、音にツヤを持たせたい時に使用します。

5. MID EQ

中域を ±15dB 補正するつまみです。このコントロールで選択された中域周波帯におけるブースとカットの量を設定します。

6. MID-FREQUENCY

100Hz から 3kHz までコントロールできるセミ・パラメトリック・スイーパー型のアクティブ・コントロールで、イコライジングする中域の周波帯を設定します。ボーカル音をよりクリアにしたり、中低域におけるフィードバックを補正する事等に使用されます。近距離のマイキングにおけるトークについては若干カットすることにより音声を前に出すことも可能です。

7. LOW EQ

シェルピング・タイプのアクティブ・トーン・コントロールで 70Hz の低域を ±15dB 増減させます。入力ソースに低域の深みを持たせたり、音のにごり等を補正したい時に使用します。

8. MON 1 & 2

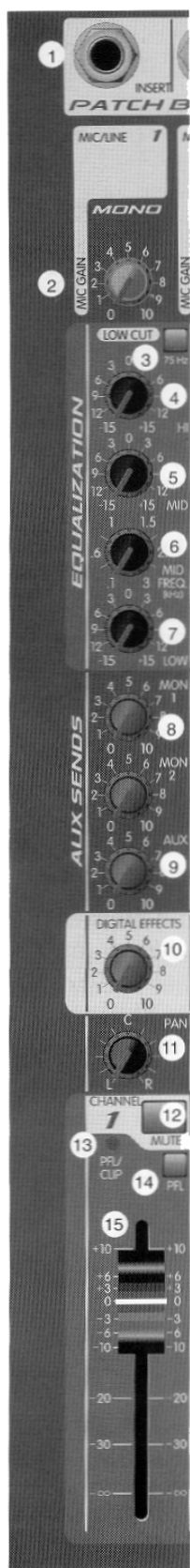
チャンネル信号のレベル(プリ EQ)を調節し、モニター・ミックスに追加します。モノラル信号をモニター・センドに送る際に使用します。

9. AUX 1

チャンネル信号のレベルを調節し、AUX ミックスに追加します。すべてのチャンネルにおいてポスト・フェーダーの設定となっており、エフェクター等を使用する際に活躍します。

10. DIGITAL EFFECTS

このコントロールは DIGITAL EFFECTS プロセッサのバスへのレベルを変えます。このコントロールを使ってそのつまみのある特定のチャンネルからデジタル・プロセッサへ送られる信号レベルを調節します。その信号はエフェクト・リターンがアサインされているミックスで聞くことができます。



11. PAN

チャンネルの信号を LEFT , RIGHT のどちらに定位させるかを決定します。Mon1/Mono Equalizer/Amplifier のスイッチ設定では PAN が LEFT/RIGHT のサブ・ミックスをコントロールして、モノラル信号としてミックスされた LEFT GRAPHIC/AMPLIFIER に送られます。

12. MUTE

チャンネルをミュートします(L&R bus, Effects, Aux sends)。PFL 信号とモニター信号は影響を受けることなくメインの L&R がミュートしている間でもチャンネルレベルを調節することができます。

13. PFL / CLIP LED

2つの機能を持つ LED はシグナル・レベルがオーバー・ロード・ポイント近くになって、PFL が押されている時に点灯します。この回路は入力ゲイン、EQ、そしてポスト・フェーダーステージにおけるオーバー・ロードをモニターします。+16dBV で点灯し、その際ゲインや EQ ブーストを下げます(LED が点灯した時点で約 2dB のヘッドルームが残っています)。PFL スイッチを押すとライトは点灯し続け、このチャンネルが PFL ミックスにアサインされていることを示しています。

14. PFL

チャンネルのプリ・フェーダー信号を PFL ミックスに接続し、ヘッドホン / コントロール・ルーム・ソースを PFL ミックスに切り替えます。また、PFL 信号を Right LED メーターに接続し、入力ゲインの設定を容易にします。このスイッチが押されている時は PFL/CLIP LED は点灯し、PFL の ソースを識別します。

15. チャンネル・フェーダー

チャンネル出力レベル・コントロールです。L&R バスに送られるレベルを設定します。このコントロールの最適な設定はポジション “ 0 ” (unity gain) です。

ラインチャンネル・セクション

16. PAN/BALANCE

L&R バスに送るステレオ信号のバランスを調節します。マイク入力からのモノラル信号においては PAN コントロールとして機能します。

17. LOW EQ

シェルビング・タイプのアクティブ・トーン・コントロールで、70Hz の低域を ± 15dB 増減させます。入力ソースに音の深みを与えたり、音の濁りを押える時等に使用します。

18. MID FREQUENCY

バンドパス (ピーク / ノッチ) 型のアクティブ・トーン・コントロールで 1kHz のミッド・レンジ周波数を ± 15dB カットしたり、ブーストしたりします。

19. HI EQ

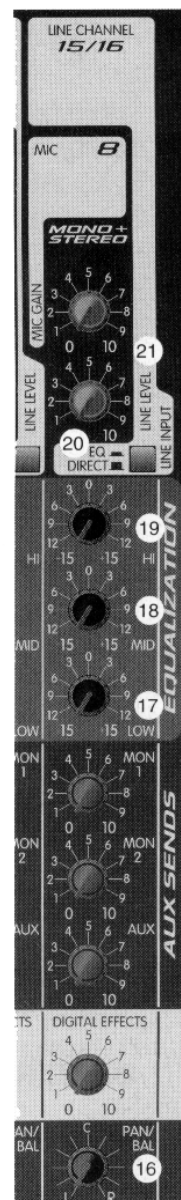
シェルビング・タイプのアクティブ・トーン・コントロールで 12kHz における高域を ± 15dB 増減させます。入力ソースの不要なノイズを押さえたり、音につやをもたせたい時等、ソースに応じて使用します。

20. EQ IN/OUT

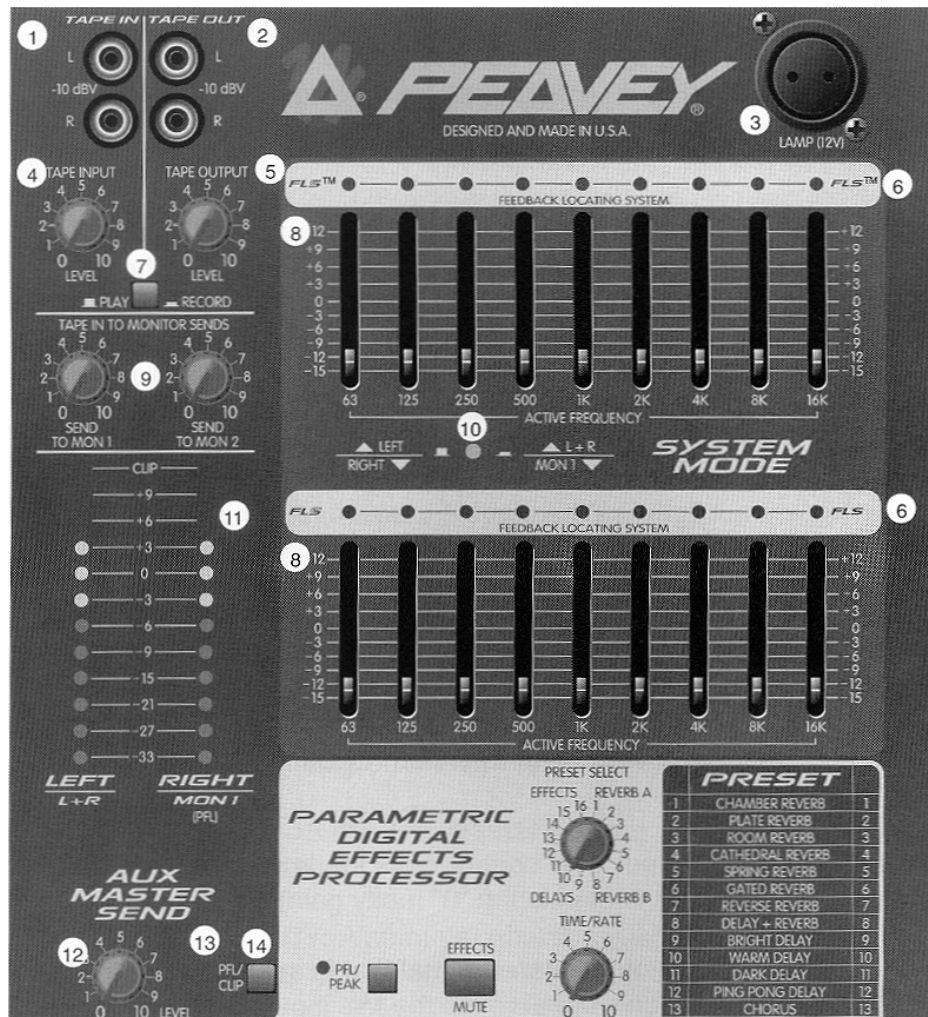
このスイッチでステレオ・ラインレベルの入力をそのチャンネルを通すか、EQ と AUX1 およびデジタル・エフェクトのバスをバイパスして L&R バスに直接送るかを設定します。ステレオ・ライン・レベル信号は常に MON1 と 2 に流れています。

21. LINE LEVEL

ステレオ入力のゲインを変えて S/N 比を最適にします。調節するレンジは +15dB までです。適切な調節をすると S/N 比を最大限にすることができ、PFL スイッ



子を使って容易に設定することができます。



III. マスター・セクション

1. TAPE IN

このステレオ・ピンジャックはカセット・デッキ又は CD プレーヤー出力からのステレオ入力(通常 -10dBV)に対応します。注意：レコーディング時に Play/Record スイッチが録音モードになっていないとフィードバックが生じる場合があります。

2. TAPE OUT

このステレオ・ピン・ジャックはステレオ・テープデッキの録音用入力端子に TAPE OUTPUT のレベル・コントロールによって設定された大きさに合わせて信号を送ります。

3. ランプ・コネクター

XLR コネクターが低ボルトのランプ用に付属しており、コンソール上を照らす事ができます。コネクターの 1 番と 2 番ピンに 12VDC を供給し、3 番ピンは使われていません。200mA 以上の負荷をかけないようご注意ください。

4. TAPE INPUT LEVEL

L/R ミックスに送るテープ信号のレベルを調節します。

5. TAPE OUT LEVEL

テープ出力ジャックに送るメインの左右のステレオ信号のレベルを設定します。これがポスト・マスター・フェーダーです。

6.FLS(フィードバック・ロケーター・システム)

LED が点灯し周波数帯の最も高い位置を表示します。この LED の点灯によりフィードバックする周波帯が表示され、そのグラフィック・スライダーを補正してゲインを下げ、フィード・バックを減少、または取り除くことができます。

(注意：LED はフィード・バック中だけでなく、いかなるオーディオ信号にも点灯します。)

7.PLAY/REC スイッチ

このスイッチでテープ出力ジャックへの信号をミュートします。録音・再生に 1 台のテープデッキを使用している場合は、このスイッチを押して録音時のフィード・バックを避けてください。2 台使用している場合はこのスイッチを押す必要は有りません。録音テープデッキの出力がミキサーに接続されていない為、フィードバックが生じることはありません。

8.グラフィック EQ

9 バンド EQ が 1 オクターブを中心として収められています。15dB のカットと 12dB のブーストができるようにデザインされています。

9.TAPE TO MONITOR SENDS

AUX1 または AUX 2 のミックスにモノラル・サムのテープ信号を送ります。これはテープ信号をモニターに送ってサウンド・トラックのモニタリングに使用したり、歌手があらかじめ録音したバックミュージックにあわせて歌う時に使用します。

10.システム・モード

このスイッチで XR886 をステレオまたは 2 チャンネルのモノラル・アンプ・モードに切り替えます。XR886 はデフォルト状態で Left Main が上段の EQ、Right が lower EQ に設定され、工場から出荷されています。このスイッチが押されると、(操作中に不意にスイッチを入れてしまわないようにスイッチは奥まっています)上段の EQ に PA Left + Right が接続され、L/R のフェーダーで各々コントロールができ、2 つのサブ・ミックスを可能にします。例えばいくつかのチャンネルのパンを左に動かしてボーカル専用に設定し、他のチャンネルを楽器専用としてパンを右に動かし、各々独立してコントロールできます。下段の EQ は MONITOR 1 の信号だけとなり、ひとつのコンパクトで持ち運びやすいパッケージにモニター・ミキシング・システムとすべての PA を創り出すことができます。

11.LED メーター

12 本の LED が 2 列に並んでおり、メインの L-R 出力のレベルをモニターします。0dB のリファレンス・レベルが 0dBV に相当します。また、LED メーターが “0dBV” をさしている時はパワー・アンプがフルパワーであることを表しています(4 300W / 8 180W)。MODE スイッチを押すと LED メーターは左側が(L/R)モノラル、そして右側が MONITOR1 に切り替わります。右のメーターは PFL メーターとしても使用されます。PFL が選択されている時は左のメーターが消され、右メーターが PFL レベル専用となります。

12.AUX MASTER LEVEL

AUX 1 ミックス出力レベル・コントロールです。出力ジャックに送る AUX 1 のレベルを設定します。このコントロールに最適の設定は “5” (ユニティー・ゲイン)の位置です。

13.AUX PFL/CLIP LED

AUX PFL スイッチが押されて、その信号が PFL ミックスにアサインされていることを点灯して示します。また、クリッピングする前に 2 dB のヘッド・ルームが残っていることを点灯して示します。

14.エフェクト PFL

プリ・マスター・フェーダーの AUX 信号を PFL ミックスに接続してヘッドホン・ソースを L-R ミックスから PFL ミックスに切り替えます。また、PFL ミックス信号を右メーターに接続します。



15. エフェクト PFL/PEAK LED

エフェクト PFL スイッチが入っている時に、信号が PFL ミックスにアサインされていることを点灯して示します。また、デジタル・エフェクト・プロセッサにおいてクリッピングする前にヘッドルームがあと 6dB 残っていることを点灯して示します。

注意：この PFL/PEAK LED は他のミキサーの LED と異なり、クリッピングするレベルよりも 6dB 手前で LED が点灯します。その為、時々フラッシュすることがありますがそのまま光り続けることはありません。エフェクト・リターン・コントロールのレベルを設定してピーク LED が時々点灯するように設定して下さい。

16. EFFECT PFL

デジタル・エフェクト・プロセッサ出力の信号を PFL ミックスに接続してヘッドホン・ソースを L-R ミックスから PFL ミックスに切り替えます。

また、PFL ミックス信号を右のメーターへ接続します。

17. EFFECT MUTE

デジタル・エフェクト・プロセッサから L/R と MONITOR 1 と 2 へのエフェクト信号をミュートします。PFL 信号への影響は無く、この信号でメインまたはモニターへのデジタル・エフェクト出力をミュートされている時、デジタル・エフェクト・ミックスとレベル(ヘッドホンを通して)をチェックします。

18. エフェクト・プリセット

このコントロールで Preset Effects のリストに表示されているプリセットを選択します。8 リバースと 4 ディレイ及び 4 エフェクトがあります。新規のエフェクトが選択されると、PFL/CLIP LED が点滅してそのエフェクトがロードされている事を示します。詳細は EFFECTS PROCESSOR PRESETS をご参照下さい。

プリセット	ネーム	パラメーター 1	パラメーター 2
		タイム	ダンピング
1	エコーチェンバータイプ	150 ~ 5,000ms	200Hz ~ なし
2	プレート(鉄板)タイプ	100 ~ 4,000ms	200Hz ~ なし
3	通常のルームタイプ	150 ~ 5,000ms	200Hz ~ なし
4	教会・大聖堂タイプ	100 ~ 8,000ms	200Hz ~ なし
5	スプリング・リバーブ	150 ~ 5,000ms	200Hz ~ なし
6	ゲート・リバーブ	150 ~ 500ms	200Hz ~ なし
7	リバース・タイプ	150 ~ 500ms	200Hz ~ なし
8	ディレイ + リバーブ	0 ~ 225ms	リバーブ・タイム 0 ~ 500ms
9	明るめのディレイ	0 ~ 500ms	フィードバック 0 ~ 99%
10	やわらかめのディレイ	0 ~ 500ms	0 ~ 99%
11	暗めのディレイ	0 ~ 500ms	0 ~ 99%
12	ピンポン・ディレイ	0 ~ 500ms	0 ~ 99%
13	コーラス	0.125 ~ 8HZ	レート 0 ~ 100%
14	フェイザー	0.250 ~ 16HZ	0 ~ 100%
15	フランジャー	0.1 ~ 2.5Hz	0 ~ 100%
16	ロータリー・スピーカー・ シュミレーター	0.5 ~ 25Hz	0 ~ 100% (Width)

19. TIME/RATE

リバーブとディレイのプリセットにおいて特定のリバーブまたはディレイ・タイムを調節します。コーラス、フェイザー、フランジでは各々のレートを調節します。ロータリー・スピーカーの設定ではスピーカー・ローテーションのスピードを調節します。

20. エフェクト・マスター・センド

エフェクト・ミックスの出力レベル・コントロールです。パラメトリック・デジタル・エフェクト・プロセッサへ送るエフェクト・レベルを設定します。デジタル・エフェクト・プロセッサには自動レベルコントロールが入力信号回路の中に入っており、突発的にオーバー・ドライブするのを防ぎます。しかし、これはプロセッサに対する適正レベルの設定とはなりません。

21. エフェクト・マスター・リターン・レベル

エフェクト・リターン出力のレベル・コントロールです。L/R のミキシング・バスに送るデジタル・エフェクトの出力レベルを設定します。

22. SEND TO MONITOR 1 (下記の“ 23. SEND TO MONITOR2 ” を参照)

23. SEND TO MONITOR 2

このコントロールを使って MONITOR 1 と MONITOR2 のミックスに送られるデジタル・エフェクト・シグナルを調整します。これにより演奏者はデジタル・エフェクトをモニター・スピーカーで聞く事ができます。

24. DAMPING/FEEDBACK

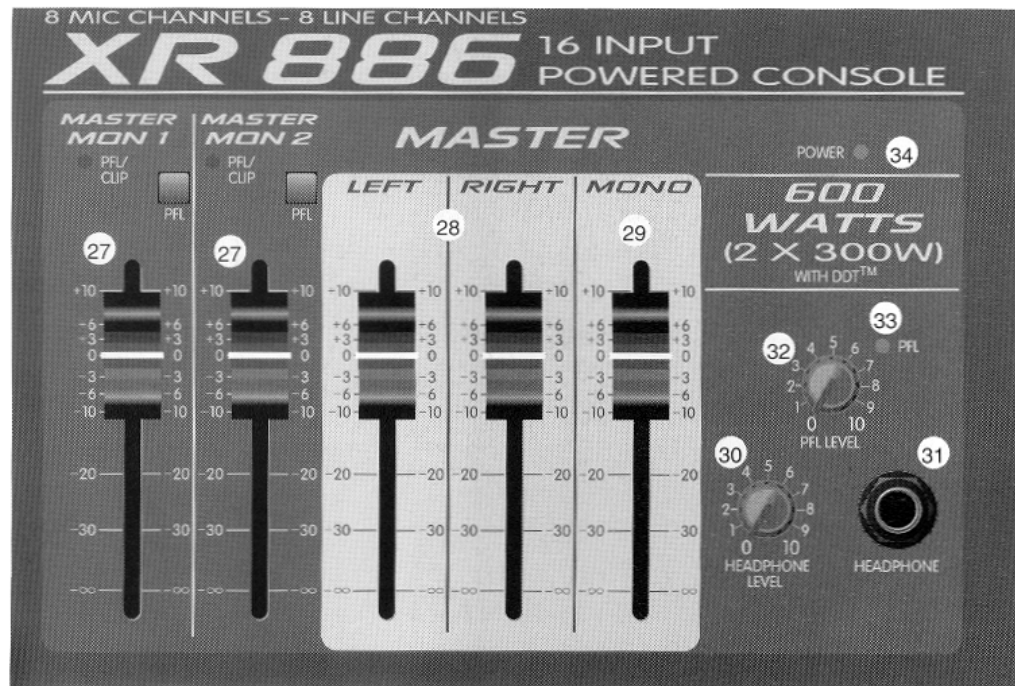
リバーブ設定において、このコントロールでリバーブ系のソースにおける高域コンテンツを調節します。最小 200Hz 位から最高 14kHz まで時計回りに調節することができます。ディレイではフィード・バックのみ調節し、コーラスとフランジャーでは深さを調節、そしてロータリー・スピーカー・モードでは幅を調節します。

25. MONITOR 1&2 PFL/CLIP

LED が持つ 2 つの機能は信号レベルがオーバー・ロード・ポイント近くになった時、そして PFL スイッチが押されている場合に点灯することです。+16dBV で点灯します(点灯した時、2dB 位のヘッド・ルームが残っています)。PFL スイッチが押されている時は点灯し続けて、モニターが PFL ミックスにアサインされていることを示します。

26. MONITOR 1&2 PFL

選択したモニター信号(プリ・マスターレベル)を PFL ミックスに接続してヘッドホン / コントロールルーム・ソースを L/R ミックスから PFL ミックスに切り替えます。また、PFL 信号を右メーターに接続して出力レベルのモニタリングをやすくします。



27. MONITOR 1 & 2 MASTER LEVEL

MONITOR1 と 2 の信号の全体のレベルを設定して、出力ジャックに送ります。“0” (ユニティー・ゲイン) の位置が最適の設定です。

28. MASTER LEFT/RIGHT

独立したフェーダーで左右のミックス・レベルを設定します。出力はグラフィック EQ 後のレベルが左右のメーターでモニターされています。このコントロールの最適な設定は“0” (ユニティー・ゲイン) の位置です。

29. MONO LEVEL

モノ・ミックス出力のレベルを調節します。この信号は左右の出力信号のポスト・フェーダーを合わせたものです。“0” の位置はユニティー・ゲインの設定です：10dB のゲイン・ブーストが使用できます。

30. HEADPHONE LEVEL

ヘッドホン出力のボリュームを調節します。出力は PFL が ON であれば L/R ミックス(ポスト・フェーダー) から PFL ミックスに変わります。

31. HEADPHONE 出力

このステレオジャック(TRS)はステレオ・ヘッドホンをドライブする信号を送ります。PFL がアクティブになっている時、L/R ミックスから PFL ミックスへと変わります。このレベルは HEADPHONE LEVEL CONTROL で設定します。チップ=左,リング=右,シールド=グランド

32. PFL MASTER LEVEL

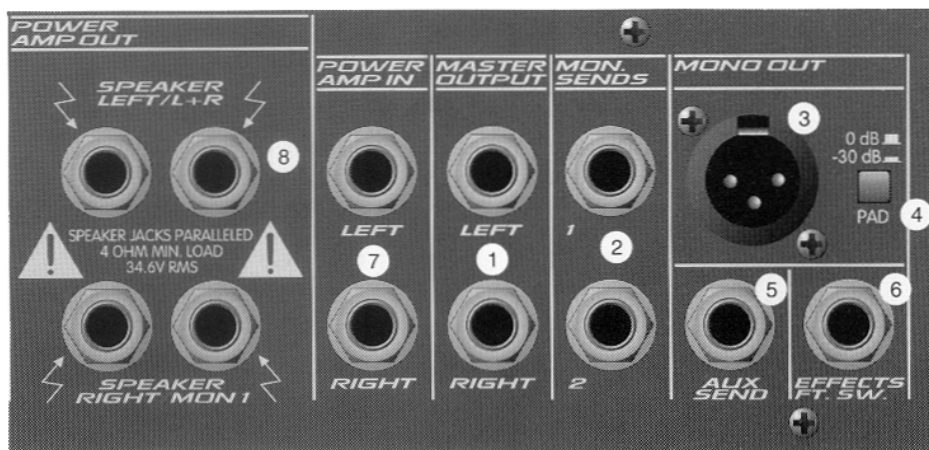
ヘッドホン・レベル・コントロールへ送られる PFL ミックスのレベルを設定します。PFL がアクティブになっている時のみ、機能します。

33. PFL ACTIVE

この LED は PFL が ON の状態で、信号がヘッドホン出力と L/R メーターにおいて L/R ミックスでオーバー・ライドしている時に点灯します。PFL ミックスの信号は個々の LED の点灯によって識別します。

34. POWER

ユニットに電源が入っている時、LED インディケータの電源が点灯します。



IV. マスター・セクション出力

1. L/R 出力

バランス仕様の 3 極フォン(チップ=ハイ,リング=ロー,シールド=グランド)で左右のミックスを出力します。上部の端子は左の出力で下部の端子は右の出力です。レベルは各々のマスターL/R フェーダーで設定します。

2. MONITOR 1 & 2 出力

バランス仕様の 3 極フォン(チップ=ハイ,リング=ロー,シールド=グランド)で MONITOR1 と 2 のミックス出力です。上部の端子は MONITOR1 出力、下部の端子は MONITOR2 出力です。レベルは各々のマスター・モニター・フェーダーで設定します。

3. BALANCE MONO 出力

モノ・ミックスのキャンオン仕様のバランス出力です。MONO LEVEL CONTROL で設定します。2 番ホットになっています。

4. PAD

モノラル出力信号を 30dB アッテネートします。ロー・レベルの信号を必要とする別のミキサーにモノラル出力を送る時、入力のオーバー・ロードを防ぐ為に必要です。

5. AUX SEND

AUX ミックスを出力する端子です。アンバランスで外部のモニター・システムまたはエフェクト・ユニットに接続することができます。このレベルは AUX master level と各々のチャンネルにおけるレベル・コントロールで設定します。

6. EFFECT FOOT SWITCH

このジャックはフットスイッチ用です。このジャックを使ってエフェクト・ボードの出力を止めます。ただし、Rotary Speaker モードは例外で、その場合は Rotary Speaker のスピードを fast/slow に変更することができます。

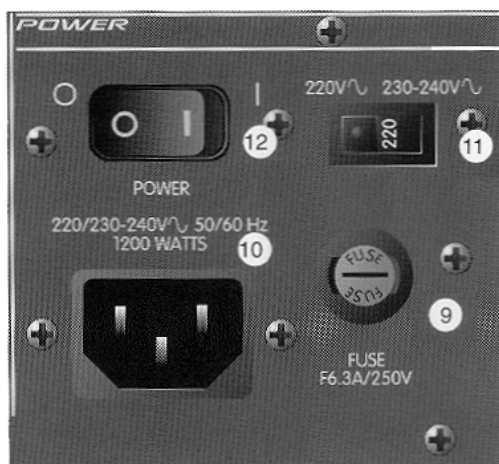
7. POWER AMP INPUT

このジャックはミキサー・プリアンプからのメイン L/R 出力とグラフィック EQ 入力間の接続を断線するポイントです。このジャックへ差込めば、ユーザーはダイレクトにグラフィック EQ 及び、各々のパワー・アンプのチャンネルに接続することが可能です。

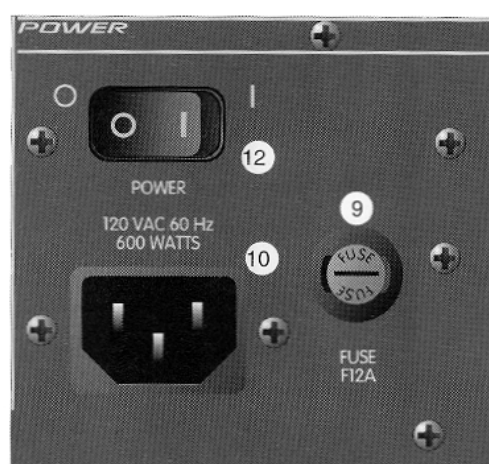
8. SPEAKER OUTPUTS

このジャックは内蔵アンプのスピーカー・アウトとなります。スピーカーのインピーダンスの合計がチャンネルごとに 4 以上である限り、2 つのスピーカーをそれぞれのチャンネルに接続することが可能です。(例えば、8 のスピーカー・2 つが平行接続されている、または 16 のスピーカー・4 つが平行接続されている時など)4 のパワー・アンプの出力は連続で 300W、8 では 205W です。アンプは両チャンネルとも同時にドライブされます。

アメリカ国内仕様



海外仕様(日本)



9. FUSE

AC ライン電圧のメインの安定ヒューズです。交換の際は、必ず型式、スペックも全く同じ物を使用してください。もしもヒューズが飛び易い時は、PEAVEY 代理店のサービスセンターにご連絡下さい。

10. AC コネクター

IEC コードを挿入するコネクターで AC 電源をミキサーやアンプに供給します。ライン・コードをこのコネクターに接続しユニットに電源を供給します。不適切なライン電圧を使用すると故障の原因となりますので気を付けてください。

11. 電圧切換スイッチ(海外仕様のみ)

このスイッチは海外仕様の XR886 に適切な電圧を選択し、本機は日本国内における 100V 仕様となっています。

12. 電源スイッチ

ミキサーのメインの電源スイッチです。ユニットに電源が入っている時は LED インディケータが点灯します。

V. 主な仕様

ゲイン：

マイク入力 - L/R 出力	76dB
ライン入力 - L/R 出力	56dB
ステレオ入力 - L/R 出力	30dB

最大出力 (各チャンネル)：205W (8) 300W (4)

周波数特性：20Hz～20kHz

全高調波歪：0.009%以下 (マイク - メイン出力)

S/N 比：83dB 以上 (マイク - スピーカー出力)

クロストーク：70dB 以上

ランプ出力：12VDC / 200mA (PIN1&2)

電源定格：100VAC 50/60Hz 960W

